

第8回上下流交流会「神流川・下久保ダム・八斗島見学会」 2020.8.26

奥秩父山地の甲武信岳を水源にして秩父盆地を流下するのが荒川。

神流川はこの甲武信岳西隣の三国山を水源にし、秩父西方の山並みの向こう側(群馬県)を下り、中流部からは埼玉・群馬の境界を流れ、埼玉県最北端で烏川に合流する。神流川を入れた烏川は間もなくして利根川に入る。

神流川中流部にある下久保ダムは、戦後早くから利根川治水のために計画されたが(S24)、その後の経済成長期の水需要増大や喫緊の課題として東京オリンピックを控えて水不足の東京に水を送るため、貯水容量を大きく変更して矢木沢ダムとともに造られた(矢木沢S42、下久保S43完成)。埼玉県のダム建設への参加は下久保ダムから。下久保ダムの完成を待って大久保浄水場(さいたま市)ができ、埼玉県の水道事業がスタートした。

利根川水系の本流筋(ライト)、吾妻川筋(センター)、神流川筋(レフト)にそれぞれ洪水調節機能が必要だが、センター守備の吾妻川水系に計画されたハッ場ダムが遅れに遅れたが昨年完成し、台風19号による洪水氾濫制御に貢献した。同様にライト守備の奥利根ダム群もレフト守備の神流川の下久保ダムも下流域埼玉の治水に大きな貢献をした。

しかし県民の多くが下久保ダムの存在を知らない。そこで今回の上下流交流会は、神流川を下り、下久保ダム、及び利根川の河川基準地点八斗島見学とした。

さらに下久保ダムが身近なダムであることを感じてもらうため、あえて県内秩父盆地から、秩父凹地帯を通る国道299号を遡り、志賀坂峠越えで、神流川上流部に入るルートを選んだ。

見学記録



奥秩父山地と上武山地の境界の秩父凹地帯に国道299号が通り、この沿道に中生代最後のジュラ紀の地層が露頭している。

国道299号脇の崖(群馬県神流町瀬林)には、道路工事で発見されたという海岸のさざ波跡を残す「漣岩」と恐竜の足跡を伝える穴二つを見ることができる。



上野村漁協が運営する「川の駅上野」(群馬県多野郡上野村檜原)内にある「ふれあい館」裏手の神流川。

流れは清流だが、昨年(2019.10)の台風19号で倒木や川岸が泥を被るなどし、地元民にとっては「汚くなってしまった」という思いが強いようだった。



下久保ダム貯水池「神流湖」上流部。台風19号に流送土砂が厚く堆積。浚渫と併せて、集中的に堆砂させるための沈砂池が掘られていた。この辺りの国道462号を大型ダンプがひっきりなしに通る。堆積土を搬送しているとのこと。



下久保ダム貯水池の「神流湖」に浚渫船が浮かぶ。浚渫土は、一部は原石山に搬送するが、ダム直下や神流川が平地に出る辺りの上武橋付近に仮置きし、国道17号深谷バイパス工事の道路造成等で使うなど、土砂還元を積極的に進めている。



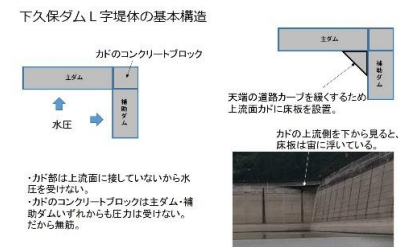
下久保ダム所長の田野さんから、力を入れている堆砂の土砂還元について伺う。下久保ダムのL字形堤体については、機関誌『水のFORUM』にあるためかお話がなかったという声に、改めて電話で詳細を伺った。下記に示す。



管理所内の展示コーナーで、手作り？模型やダム建設に理解と協力して下さった方々のかつての暮らしを知る。



神流湖を背景に記念撮影。コロナ禍で全員マスク着用。これも記念。その後、ダム天端を歩いて説明を伺った。



下久保ダムを特徴づけるL字形の堤体。主ダムと補助ダムをつなぐカドの基本構造を知り、大規模構造物も基本構造は意外にシンプル。面白い、ダムに興味湧いた、というのが参加者の感想。



下久保ダムは埼玉県と群馬県の境界に位置する。天端中央にその境界線があり、それぞれ指差して、スナップに収めた。



利根川の河川基準地点がある八斗島(群馬県伊勢崎市八斗島町)。上流にダム群があつてなお、今年の台風19号では一時この広い洪水敷きが満水になった。背後の斜張橋は国道462号の「坂東大橋」。対岸は埼玉県本庄市。

※以上は、Facebookにアップした。また、水のフォルム機関誌『水のFORUM』Vol.20に詳細を掲載する。